character list:

桃太郎

おばあさん yyy

おじいさん

ヤマト

玉藻前 fxc

八咫烏 dys

おにリーダ clj

たくさんのおに

村人

信長

光秀

蘭丸

足軽

**ナレーションA：今日、わたくしたちはみんなに一つ故事（こじ）をあげる、一人英雄ついての故事、彼死ぬ時の故事。**

**ナレーションA：昔々から、本能寺のそとに（很久以前，本能寺）**

光秀：敵は　まえにあり。全軍　進め！**今日こそ、敵リーダの命を取る！**

**（光秀站在讲台上）**

**/\***

**\* 讲台作为本能寺的门吧**

**\*/**

**ナレーションA：本能寺のなかに**

信長： そとが何が発生しましたか。

蘭丸：信長様、わたくしがいま確認してきます。

（蘭丸向讲台上移动）

蘭丸：あ。桔梗の家紋。あれは明智様の軍勢です。

**（蘭丸急匆匆从讲台下来回到信长身边正要说话，足軽１从教室门口急匆匆进入）**

足軽１：て。伝令　明智丹波守光秀が謀反した。今　本能寺が包囲されました。

信長：光秀か。きっと失敗されます。

**（足軽２从门口急匆匆进入）**

足軽２：て。伝令　火、火が起きました。

蘭丸：豊臣秀吉様が　この本能寺の中に　 秘密通路を準備しといた。信長様、ご撤退ください。私が案内する。

**（两个人向舞台的某个地点（非讲台）跑去）**

蘭丸：くそう、秘密通路は閉鎖されました。これはまじ窮地に追い込められた。信長様、今ならどうするべきか？

**ナレーションA：**突然に、一本すごく早い弓矢（ゆみや）が空を引き裂いて、深々（ふかぶか）に信長の胸に刺してしまう。

**（旁白说话的时候信长左肩部向后冲击一下，如同被箭矢射中，同时右手捂住左胸做痛苦喘息状，下蹲，蘭丸单膝下蹲膜信长）**

**信長：**うあああ、心臓が。。。ん野郎が、ほかに残っている仕様が無いのか。はしの覇道が　ここまでなんだか。

**ナレーションA：だんだん、信长の視線（しせん）が模糊（もこ）になってしまった、血が傷から噴射（ふんしゃ）してきた、絶望と悔しさが彼の心に混んでいた、これで、歴史にある一人英雄（えいゆう）が倒されてしまいました。**

**（信长极力配合旁白的描述，渐渐向前扑倒，双手撑地屈身）**

**信长：ああ、俺がこうやって倒されたんだか？悔しい、悔しいなあ！**

**ナレーションA：須臾（しゅゆ）の中、信长が少し異変（いへん）を感じた。**

**（旁白说话的时候信长突然醒悟一般发出一声，同时开始左右顾）**

**信長：これは、何の音？あ、そこに微光か。もしかしたら、天国の入り口なんですか、ああ、これで、残念も残っていないよね。。。**

**ナレーションB：**あんな微光（びこう）が少しずつおおきくなりました、形がだんだんに見えた。

**信長：**なるほど、天国入り口の姿が一つ桃なのか。なあ？桃？なんということだ！あ、だめだ、入られてしまう！いやだ、また死にたくない、助けろ、いやあああああああ！！！

**ナレーションＢ：**昔々、あるところに、おじいさんとおばあさんがいました。ある日、おじいさんは山へ柴刈りが、おばあさんは川へ洗濯に出かけました。突然、川の上の方から、大きな桃が流れて来ました。おばあさんはその桃を発見して、よくびっくりしました。

**おばあさん：**あっ、なんておおきなもも！　一体どこから流れてきた、食べられるかな、おじいさんと相談して見よう。

**ナレーションB：**おばあさんはとても大きい力で、すごい時間を掛かって、やっとこのモモを上げて接岸してきました。おばあさんは大きいモモをぼうっとみて、そしてたらいの上で置いて、一生懸命努力したのは家に帰ることを歩きました。

**ナレーションB：**たそがれの時、おじいさんが山の中から帰って来て、たくさんの薪を背負って、喜び勇む（よろこびさむ）言うことが。

**おじいさん：**ただいま! うわ、それはなんだ! おおきいももなんですか?

**おばあさん：**おかえりなさい。あっ、大きな桃だよ、川の上から流れてきました、初めて発見した時、よく怖かったんだね。でも、すこし観察しておいて、ただ普通の大きい桃なんと想いにした、ところで、美味しそうね、一緒にたべてみようか。

**ナレーションＢ：**おばあさんは包丁（**ほうちょう**）を取り出して、モモを切ることを始めました。でもおばあさんはモモを切開（せっかい）するその時、“わーー!”の泣き声が耳に入りました。モモの中間は1つの健康のかわいい赤ん坊が飛び出してきた、大声の泣くこと。

**おばあさん：**かわいいおとこのこね、え！ちょっと待て！なんということ！ももの中にが人類がいたということか！信じられない、一体どうやって生まれたの？おじいさん、よくみてよ！

**おじいさん：**確かに不思議のことなんだよね、山に住んでるの時間で、こういうことみたことがなかったんだ。これは、もしかしたら、もも神なんですか？

**おばあさん：**まあ、どうして考えるのも答えを出せない、これは生き物でしょう？じゃ名前がなっかたら、かれんなことになったんでしょう！ なんのなまえにしましょうか?

**おじいさん：**ももからうまれたなら、ももたろうにしよう。

**ナレーションＢ：**おじいさんもおばあさんもよくびっくりしました。二人は、桃太郎を自分の息子と見る。桃太郎は頭脳がよくで活力もあります。おばあさんがいつも桃太郎に団子を作ります。

**おばあさん：**桃太郎、たくさん食べて、そしてはやく大きくなりなさい。

**ナレーションB：**二人は、桃太郎を大事に育ってました。桃太郎はすぐ大きになりました。優しい青年になりました。そして大変の力を持ちました、例えば、桃太郎が空手で牛を殺すことがだんだんできるのになった。

**ナレーションＢ：**ある夜の中、ある人が来た。桃太郎はまだ寝ていますが。

**ある人：**桃太郎、桃太郎、起きなさい。

**桃太郎：**お前、何者だ！

**ある人：**私は...　いや、今はまだ言えません！でも、私は君に助けてあげる人です。君は運命に選ばれた人です！いまから、君に奥義を教えてあげます。

**桃太郎：いいえ、いいえ、いいえ、それはめっちゃ変でしょう？あなたは一体誰なんだ？どうして僕のことが知ってる、ひょっとしたら、あなたは何が説明してくれられる、僕がずっと変な音が聞こえるのことについて？**

**ナレーションB：そう、桃太郎自分の言う通りだ、桃太郎は生まれた時からずっと変な音が聞こえる、それは人が一人二人がしゃべっている様な声だった。**

**ナレーションＢ：桃太郎は迷うのを持ちながら、あの変な「あるひと」と武芸（ぶげい）を習った、自分の体が自分の次第で動けずのような、コントロールされてるような、武芸をならった、その結果として、桃太郎はもっと強くなりました。**

**ナレーションＢ：**そのあと、ある日、港口から一人おじいさんが家に世間話をきてた。

村人：一か月の中に，対岸の島で，妖怪が来た，その妖怪は私たちをいじめるのが好きだった。私たちの家は破壊された，私たちの物は奪われた、みんなもあの妖怪のことを恨みをしてるが、怖っている。**だから、頼んぶよ、桃太郎、助けてくれるよ！**

**桃太郎：状況（じょうきょう）は分かった、だが私がただ一人なんだ、武芸しかない、それは俺にとって危なすぎて、やはりあなたたちは本地軍隊（ほんじぐんたい）にお願いするよ！**

**ナレーションB：でも、桃太郎が村人（むらびと）の可憐な目を注目する時、「きっと、助けてあげる」の気持ちはもう心に決めていました。**

**桃太郎：あれ、また、変な声が、え、さっき、俺が、村人を助けたいのか、たすけないのか。記憶が模糊にして始まった。どうしてそんな助けたいのか、この気持ちは本堂に僕自身の意志のかな？**

村人：も一度考えてほしいな、あなたしかできないよ、**本地軍隊**もそうさ。

桃太郎：じゃあ、僕がその島へ行って、妖怪を退治しましょう。

村人：よかった、ありがとう、ありがとう、桃太郎様！！！

**（村民欣喜至极，伴随着激动的眼泪）**

**桃太郎：俺は一体。。。。。助けてあげたくなかったのに！**

**おじいさん：**桃太郎、おじいさんが君の年と合わない勇気を喜んでいるだが、心配してるよ。あんな妖怪が悪いことをするばっかり、そして太郎ちゃんはただ一人男の子だよ。

**おばあさん：**おばあさんがもちごめ団子を作ったわ。いい子だ、これをもって行って、君の力にいい、早く妖怪を倒すのに支援するとして。

**桃太郎：安心するよ、私が気を付けてるから。**

**ナレーションＢ：**桃太郎は黍団子を手に入れました。村人と別れといた、鬼ヶ島へ出発しました。その途中で。

**桃太郎：何か変だ、いつも誰が俺のことを注目する気が感じする、それに、人の声の様な音が聞こえる。じいさんとばあさんと生活してる時、こういう感じがこんな顕著（けんちょ）ではなかった、一人いる頃に、声と注目される感がはっきりされてるね、やはり錯覚（さっかく）ではない。俺のことに何が発生してる！ずっと。。。**

玉藻前：あぁ…お腹が減った〜…

**（玉藻前从教室门口步履蹒跚走入，捂着肚子）**

**ナレーションＢ：桃太郎が自分のことを考える時、正面（しょうめん）から一人人間様な生き物が歩きました。**

玉藻前**：**おい、あの人類、少し食べ物をくれない？

桃太郎：**ああ、俺がそんなことはもう忍耐（にんたい）できない、一体誰が喋っているんだ！**

玉藻前：あたしだよ！

桃太郎：おっと、あ、すみませんでした、犬さん、どうして人類の言葉ができますか。

**（因为错将玉藻前的声音当成了自己一直听到的声音，桃太郎对于刚才的大吼表示抱歉）**

玉藻前：犬じゃない。狐ですよ。あたしが神なんだよ！あたしの名前、聞いていなかったの？

桃太郎：へえ 神様？神という生き物が本当にいるのかな？

玉藻前：もちろん、あたしが超一流の神様だ〜

**（可以播放肚子饿叫的背景音乐，同时玉藻前做极力掩盖自己肚子响的尴尬状）**

**桃太郎：は？それでも、あなたはただ自演の神なんでしょう！神というなら、あなたの神の力を見せてくれるのはどうだ？**

玉藻前：**だめだ、今お腹がすいてる、神の力が出せない。**

**桃太郎：じゃ、どうやって俺に信じさせるのか？あなたは神様のこと？**

**ナレーションＢ：そういっても、桃太郎も彼女のことを認めている、彼女を助けてあげたかった。**

桃太郎：あなたは何を言っているのかわからないけど,なんかすごい感じです。僕は桃太郎です。

**（桃太郎此时伸出了手想要打招呼）**

**桃太郎：え。。ちょっと、一体何か起こってしまった、俺が、彼女のことを認めたくなかった。**

**（桃太郎突然将手伸出伸入，来回犹豫不决的样子，旁白B在其身后做操控状）**

玉藻前：**うん？？？まあいいか、桃太郎、私の腹が減った、一つ黍団子をください！**

**（玉藻前先做奇怪状，后爽朗地问桃太郎要丸子）**

桃太郎：はい、どうぞ。**僕は妖怪と戦いにいく、村人をたすけるのとして、僕と一緒に来てくれない？**

**（桃太郎说完话咬了一口团子）**

玉藻前：じゃあ、黍団子をもらったから、私も行く。一緒に鬼を退治しましょう。**あたしは君のことを守れるよ。あたしの力を無視すれば、チームの全力が大損をするわ！**

**（玉藻前接过了团子一边吃一边说道）**

桃太郎：あ、最高！おばあさん作る黍団子を食べて、やる気満々だ!

**（桃太郎吃完了团子）**

玉藻前：ふん、妖怪を倒す、**めっちゃ簡単なことじゃない！**

**（玉藻前吃完了最后的一口团子）**

大和：おい、その二人、俺も行く！

桃太郎：おっと、猿さん、どうして人類の言葉ができますか。

大和：ああ。僕は猿じゃあないですよ、神ですよ**。私がみんなさんに「ヤマトダケル」と呼ばれます。**

**桃太郎：どういうことだ、自分で神を呼ぶのやつ、もう一回？**

**ナレーションＢ：そういっても、桃太郎も彼のことを認めている。**

**（一边说一边 在背后做操控状）**

**桃太郎：え、さっき、俺が何か考えているのか。。。。**

**（桃太郎突然感到害怕，呆呆地站在原地，不一会儿一个踉跄反应了过来）**

桃太郎：おっと。ヤマトダケルさまか。**僕は桃太郎と申します**。こちらは玉藻前。

玉藻前：さっき我が飢餓を忍耐しきれなくなったの時に、桃太郎は我にもち米団子を送ってくれた、そして我があの子を守りながら、一緒に鬼の島へ鬼の退治をするのになった。

大和：熱心な桃太郎よ、我にももち米団子一本をくださいますか？そうしたら、我もいくぞ！

桃太郎：はい、どうぞ。

大和：なんと優しい人間だ、我は貴様たちと一緒に悪を打つするべき！

**（要来了一口团子以后说了这句话，可以嘴里真的吃什么东西）**

/\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*/

桃太郎：へえ！どしてその烏がみっつの爪を持っていますか！**もしかして、そちらも神様なのかな。**

八咫烏：あなたの直感は、非常に正確です、少年。（没错，我就是颈项上挂着三大神器之一八咫镜的八咫烏です。）そう、私は首上に三つ神器の一つ――八咫鏡が掛かるの八咫烏です。（我是受太阳神天照派遣到人间，）太阳神天照に派遣させられるで、現世に来ます。（是大御命的使者，也作为太阳的象征之一！）大御命の使者でもあり、太陽の象徴でもあります。

**桃太郎：いいえいいえいいえ、変すぎなんでしょう、さっきからずっと変なやつとあうこと、神様が固執（こしつ）して僕のことを助けてあげるように。（不不不，太奇怪了吧，刚才开始就遇到一些奇奇怪怪的人物，就仿佛神明安排好要帮助我一样）**

**旁白：そういっても。。。（虽然这么说）**

桃太郎&玉藻前&大和：喔 听起来很厉害的样子，你的使命是什么？わあ、その言葉から見るなら、すごいそうです！じゃ、あなたの使命は？

八咫烏：我は亡霊をさいどするの使者（ししゃ）だ、人々は死んだら仏（ほとけ）になる、でもそれは普通な人間のしぬことだけだ、仏になれないやつが人間に回ってるの怨霊（おんりょう）になる、そういう怨霊をさいどするのはわれの仕事だ、そういっても、けっきょくあんなやつを永遠（えいえん）になくなるのにするわけだ。われこそ、生と死の限界（げんかい）の管理者、いつも死ぬことと生きてる。このように死ぬのはさえあれば、われが消えない。（我是超度亡灵的使者，但凡人死都会成佛，但是无法成佛的就会成为在人间徘徊行恶的怨灵，而我的工作就是超度这些怨灵，不过说白了就是让他们魂飞魄散。我是生与死界限的管理者，与死亡共存。只要世上还有死亡，我就不会消失。）

桃太郎：すごい！私たちはちょうど村民をいじめてるの妖怪と戦っていくの、もしあなたは私たちに力をかしてくれるなら、きっと勝利にするよ！（好厉害！我们正要去跟欺负村民的妖怪战斗！如果你能愿意来帮助我们，我们一定会胜利的！）

八咫烏：いいんけれども...（可以是可以，但是...（肚子饿了））

桃太郎：あ、こっちがもち米団子がありますよ、体力としてあげる！（我这里有糯米团子，送给你补充体力！）

八咫烏：（たべた）ああ、満腹にしといたら、すごくやれますね！（（吃）啊，吃完立刻觉得干劲十足呢！）

桃太郎：じゃ、つづけて行こうか！（那么我们继续上路吧！）

玉藻前&大和&八咫烏：よし（好！）

ナレーション：八咫烏も、桃太郎の仲間になりました。

ナレーション：皆さんは、船からおりて、岩の上を歩いて行きました。おにのお城の大きな鉄の門の前まで来ました。

桃太郎：進め！

皆：はっ！

ナレーション：おしろの中ではおにたちがお酒をのんだり、ごちそうを食べたり、歌を歌ったり、おどりをおどったり、おおさわぎをしていました。桃太郎は城の中に飛び込みました。

鬼：お前は誰だ！

桃太郎：僕は桃太郎だ。日本からの桃太郎だ。僕なら、空手で牛を殺すこともできる、そういう程度（ていど）の力のことがわかる？お前ら、覚悟しろう。

鬼：ふざけんな！

大和：さって、宴会が始まりだ。鬼たちよ、俺の剣道を拝見しながら、死んでくれ！はっ！大和剣！

玉藻前：軒轅陵墓。冥府より尽きることなく。帰し帰すは黄泉の国。まろびくだりて伊賦夜坂(いふやざか)。八雷神、出でませ！

八咫烏：音バースト！

鬼：ああああああああああああ、ごめんなさい、人民から奪った宝物は全て返しますから。もう悪い事やしないんだ。

鬼リーダ：ちくしょう、お前ら、なぜ動揺されますか。進め！進め！動揺するな！

（鬼たちが武器を落とす）

鬼リーダ：お前ら！戦え！動揺するな！敵はただ４人です。戦え！戦え！！撤退するな！！撤退するな！

鬼リーダ：ち、お前ら全ては雑魚だ、使えるやつ一つもない。ちくしょう。ならば、お前と一緒に滅んであげましょう。覚悟しろ！

鬼リーダ：鬼クラス絶技（ぜつぎ）、闇振動波（やみしんどうは）、これこそ鬼間（おにげん）の中にただ一人しかできないぜつぎだ、命中（めいちゅう）されれば、生き物や死ぬ物やの精気（せいき）でさえあれば、全部俺に奪われてくる、死ぬ時で全身究極な痛さを受けらなければならないんだ、さあ、ごゆっくり試食（ししょく）してください。

**ナレーション：**瞬間に、一本言葉で描写（びょうしゃ）できない漆黒（しっこく）なエネルギー振動波が鬼たちに衝撃（しょうげき）していく、須臾（しゅゆ）の中に鬼たちがさしもないでなくなった、空間に残っているのがただあるようでもありないようでもある鬼たちの凄惨（せいさん）的な叫び声。

鬼リーダ：ち、雑魚は雑魚だった、利用の価値（かち）ではなかった、お前らも同じだ。チームリーダ様なやつはあなたでしょう、桃太郎。じゃ、君の血から飲むよ。

/\*

**\* 林姐???你的剧情是不是有点问题,下面这句**

\*/

**旁白：しかし、桃太郎の武芸程度は高すぎ、鬼リーダはすぐたおされたんだ。（然而，桃太郎武艺过人，首领很快被拿下了）**

**桃太郎：覚悟してくれ！（觉悟吧！）**

**鬼首领：（大笑）お前な、本堂に何もわからないんですね、この世界について、ね、君がこの世界何が変な様子をかんじているんかい？（你啊，真的是什么都不知道呢，关于这个世界，我问你，你是不是总感觉这个世界有些异样）**

**桃太郎：なるほど！そういうことだ、貴様一体何がわかっているんだ？**さっさといえ！**（是这样！这是怎么回事，你到底知道什么？快说！）**

/\*

**\* 林姐???你的剧情是不是有点问题,下面这句**

\*/

**旁白：しかし、その時、鬼リーダはもう、なくなってしまった。（但是鬼首领却已经死去了）**

**旁白：その後、桃太郎たちはすぐ村人の通ろに帰りました。**

**旁白：勝利を手に入れた桃太郎たちは、とても興奮（こうふん）にしていた。（获得了胜利的众人，十分兴奋。）**

**村民：桃太郎様、あなたはわたくしたちの英雄なんだ！ももたろうさま！あなたのお掛けて、奪われてた財物が全て戻りました、わたくしたちはもう一度から居場所を建立（こんりゅう）することができるのになったんだよ（你是我们的英雄啊！桃太郎大人！因为您，被掠夺的财物回来了，我们可以重新建起我们的家园了。）**

**（众人起哄）**

**桃太郎：そういっても、あの鬼リーダも生きてる時の言葉はやはり。。。（但是，鬼首领生前的话果然还是。。）**

**旁白：その時、みんなが注意していなかったところから、残られた小さい鬼一匹が桃太郎にスプリントしたんだ。（但是就在此时，在众人没有注意的时候，一只幸存的小鬼向桃太郎冲了过来。）**

**小鬼： にやあああああ！（啊啊啊啊啊！）**

**旁白：**脇差（わきざし）**が桃太郎の心臓に入った、血が不断的跳ねて出ていた、究極な痛さの後に、少しずつ、桃太郎が何を思い出した。（匕首刺进了桃太郎的心脏，献血喷涌而出，在一阵剧烈的刺痛后，桃太郎想起了什么）**

**~~ナレーション：（远处）~~**~~鬼のひしひし握ってる脇差（わきざし）が空気を引き裂いてる、銃の中から音速で飛んで出たの銃弾（じゅうだん）の様な、ぶかぶかに桃太郎の肉体に埋めてた、血が裂かれた皮膚（ひふ）から跳ねて出ていた、空間にまき散らすルビーのような。~~

**）**

**桃太郎：**こういう景色、こういう感じ、どこか、何時か、体験したんだ。そうだ、おれは戦場中だった、俺は敵に飛んできた弓矢で刺されたんだ、俺が、俺がもう死んだんだ。**（我，我已经死了啊）**

**（**

**旁白A：何をしている！（你在干什么！）**

**旁白A：どうしてこの結局（けっきょく）を捨てるの！私たちの信长さんはこれから覇業をもう一度(真的是再次???)建てられることじゃないか！（为什么要毁了这个結局！我们的信长终于能狗重新建立覇業了不是吗！）**

**旁白B：でもこういう故事（こじ）は本堂にいいのかな、桃太郎の話からは変なことになったんでしょう！信长の最後に亡くなることは彼の本体に会う結局なんでしょう？（但是这样的故事真的好吗，从桃太郎开始故事就很奇怪了吧！信长的陨落才是符合他身份的结局吧？）**

**旁白A：貴様は何がわかる！（你懂什么！）**

**桃太郎：あなたたち、一体誰だ？さっきから何を言ってるんだ？どうして貴様たちは俺が信長のことが知っているんだ？あなたたちはもしかしたら、神様なんですか？（你们，是谁？刚才开始在说什么？你们怎么知道我是信长。你们，是神么？）**

**旁白Ｂ：な。。。貴様、私たちのことが見えるか？声が聞こえるか？（你，能看见我们？听到我们说话？）**

**桃太郎：桃太郎になった時から、俺がずっとあなたたちの声が聞こえる、そして自分がいつまでも体はコントロールできないようにしている。（自从变成了桃太郎，我就总能听到你们的声音，总感觉身体不听自己指挥去做些事情）**

**旁白A：あ！そうだ、わたしたちは神なんだよ、私たちこそ、君に第二回の命をあげたんだよ、私たちこそ、君に英雄になる機会をあげたんだよ。（啊！是啊，我们就是神啊，是我们给予了你第二次生命啊，是我们给予了你成为英雄的机会)**

**旁白A：私が昔々からあなたついての作品がたくさん読んだんだ、崇拝（すうはい）だった、憧れ（あこがれ）たんだ、でも、あの作品の結局は残念だった、受けられなかった。（我很早就读过关于你的著作，很崇拜，很向往，但是，结局太烂了，不能接受）**

**桃太郎：神か？人々の運命を決めるのが最高の体験なんでしょう！ああ、そうだ、私もそう思うんだ、弓矢で殺された結局は最低だった、も一度機会をくれるのがほしい。でもね、人が殺されたなら、死ぬ、死ぬことがあったら、命の価値がある、そうじゃない？一度一度の振り返って、直して、そして手に入れるの勝利が（神吗？决定别人命运的感觉很棒吧！我也这么觉得，被暗箭结束的结局真是烂透了，我也希望能再给我一次机会。但是呢，人被杀，就会死，会死，生才有价值不是么？一遍遍重来获得的胜利，不是因为事先知道对面会做什么决定才获得的么？这样的胜利，是小人的胜利，我不认可！）**

**旁白A：も一度命をくれたくないか？もう一度君の覇業を実現（じつげん）にするの機会がくれたくないか？わたしたちの故事にそういうことができるんだ！（不想复活吗？不想实现你的霸业吗？在我们的故事里能实现一切啊）**

**桃太郎：それでいい。（这样就好。）**

**旁白Ｂ：こういう本心の次第、君が英雄に呼ばれたんだろう！ならわかった、さ、いこうか！（正是因为这样的胸怀，才能被称为英雄吧！我明白了，上路吧）**

**ナレーション：（回到过去）**鬼王のひしひし握ってる脇差（わきざし）が空気を引き裂いてる、銃の中から音速で飛んで出たの銃弾（じゅうだん）の様な、ぶかぶかに桃太郎の肉体に埋めてた、血が裂かれた皮膚（ひふ）から跳ねて出ていた、空間にまき散らすルビーのような。(鬼首领紧握着的匕首撕裂了空气,如同音速出膛的子弹一般,深深地埋入了桃太郎的躯壳内,血液从被撕开的肌肤的裂口处澎涌而出,如同在空中飞洒的红宝石般晶莹剔透)

**（信长：这样就好）**

**（信长倒下）**

**（旁白：但是这样的结局，果然还是很不爽啊**

**旁白： 要不）**

信長：わしはまだ生きっていますか。あれは夢か。。と言っても、あれは変なストリですね。ええ、胸の傷が消えてるな。どういうことですか？

蘭丸：信長様、先程、雨が降りました。火は消しました。光秀はやっぱり失敗されました。

信長：じゃあ、光秀とちょっと話しましょう。

光秀：間に合った。殿、秀吉はどこだ？

信長：秀吉？

士兵大和：ここで、私は状況を説明しましょう。光秀様、あなたの情報は、「秀吉様が謀反して、本能寺へ進軍した」ということか。

光秀：はい、その情報です。

士兵大和：信長様の情報は「光秀が謀反した、本能寺が今包囲されました」でしょう？

信長：はい、そうです。

士兵大和：じゃあ、お二人様が少々休んでください。蘭丸さま、「光秀謀反、信長公自殺」ということをご散布ください。秀吉様は必ずここに来ます。その時、全てを説明します。

信長：でも秀吉は今毛利軍と交戦中です。

士兵大和：ご安心ください。

ナレーション：5日後

足軽：伝令。豊臣筑前守秀吉様の部隊が今京都へ到着します。

士兵八咫烏：信長様、秀吉様をご招来ください。

信長：分かった。伝令。

足軽：はっ。

足軽：秀吉様、信長様は今本能寺で待っています。ご移動ください。

秀吉：信長様はご無事ですか？

足軽：はっ。早速本能寺へご移動ください。

秀吉：殿、ご無事ですか。え、光秀様、どうしてあなたは。。

信長：あ、大丈夫です。それより、前線はどうですか。

秀吉：その「信長公が死んでいます」の情報が届けた時、すぐ毛利と講和しました。そのあとすぐここに行きました。

足軽：伝令、毛利軍は突然進軍です。今彼らの軍勢は備前で宇喜多様の軍勢と交戦中です。

ヤマト：この事件は、毛利軍の離間です。彼らは今必ず「信長は死んでいます」と思います。信長様、中国へ進軍を命令お願い。毛利軍が「自分の策が成功」と思って、きっと本土の防備が無視します。

信長：そうですか。じゃあ、わかった。光秀、秀吉。

光秀、秀吉：はっ。

信長：我が軍はすぐ山陰方面へ進軍、毛利の策を利用して、これより私たちは毛利軍を奇襲します。桶狭間の奇跡、織田軍のプライド、尾張侍プライド。ここにもう一回満開しましょう。

八咫烏、ヤマト、玉藻前：ご武運を！

光秀：本当の敵は毛利軍です。目標 中国へ、全軍 進め！

ナレーション：織田軍の奇襲が大成功です。この後、全国の大名のみなさんが全て織田軍へ投降して来った、

足軽：伝令 北条氏が投降して来ます。

（周り）

足軽：伝令 上杉氏が投降して来ます。

（周り）

足軽：伝令 大友氏と島津氏が投降して来ます。

織田：これは全日本が統一されます。日本の明日が、私たちを開創！よし、みんな、騒げ！

全員：織田殿、万歳！天皇陛下、万歳。

ナレーター：織田軍が日本を統一です。その後織田幕府を構えます。全国各地で南蛮や明やユーロパと貿易します。その同時に、先進の科学とテクニックを取り入れます。その後、イギリスのデモクラシーを取り入れます、織田氏はもちろん日本の初代首相になります。その民主政府が日本を導き、新時代を迎えます。

**旁白：やはりこんな結局は一番ですね**